

中学校C 体育学習における言語活動について

吉川 明夫 (長生)

岡安 和彦 (夷隅)

初澤 朋恵 (君津)

坂本 年伸 (木更津・袖ヶ浦)

片山 博臣 (市原)

吉野 達也 (安房)

1 テーマについて

新学習指導要領では、第2章 保健体育科の目標及び内容において次のように示されている。

「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」を育てるためには、体を動かすことが、情緒面や知的な発達を促し、集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成することや、道筋を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動などを通じて論理的思考力を育むことにも資する・・・。

また、指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項では、各教科等の指導に当たっては、生徒の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実することとしている。

これらのことを踏まえ、体育学習における言語活動の充実についていくつかの実践例や参考資料を提示してみる。

2 言語活動を充実させるためには

(1) 言語活動を推進するために、保健体育では、「コミュニケーションや感性・情緒の基盤という言語の役割」の観点が重視されなければならない。

◎言語能力の育成につながる学習活動

- ・体験から感じ取ったことを言葉や、絵、身体などを使って表現する
- ・「球技やダンスなどの集団的活動や身体表現などを通じて他者と伝えあったり、共感したりする」
- ・保健領域において「これまでの知識を活用して話し合いなどを行う学習活動を取り入れる」

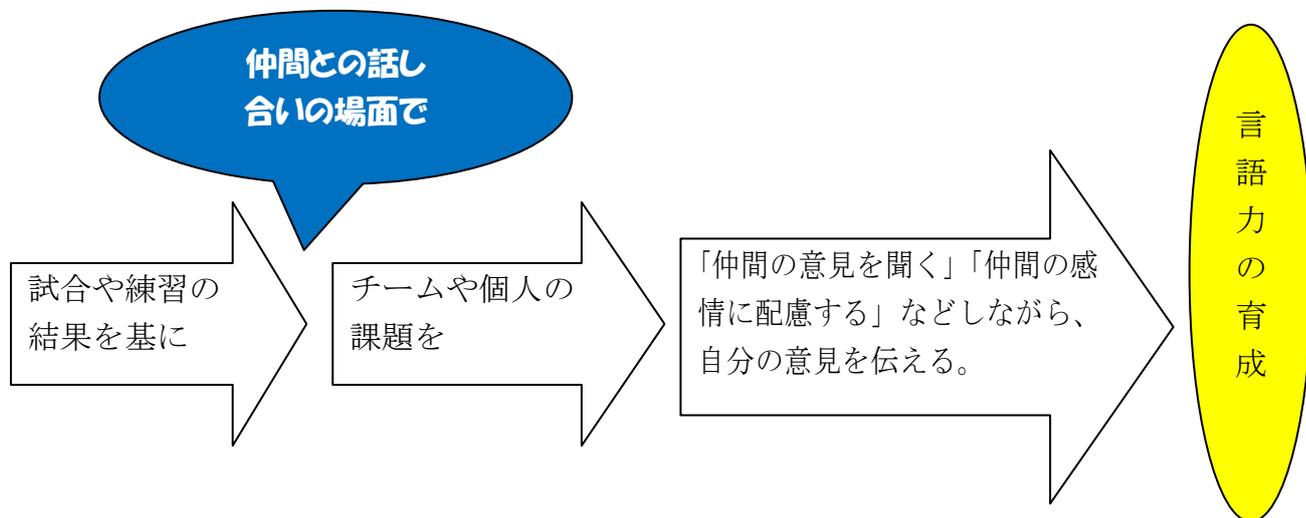
(2) 言語力の育成が図られるような適切な教材や発問、指導過程の工夫、運動観察のポイントなどの明確化を図ることで、**十分な運動量を確保しつつ**言語活動の充実を図っていくことが大切になる。

3 場面の具体例

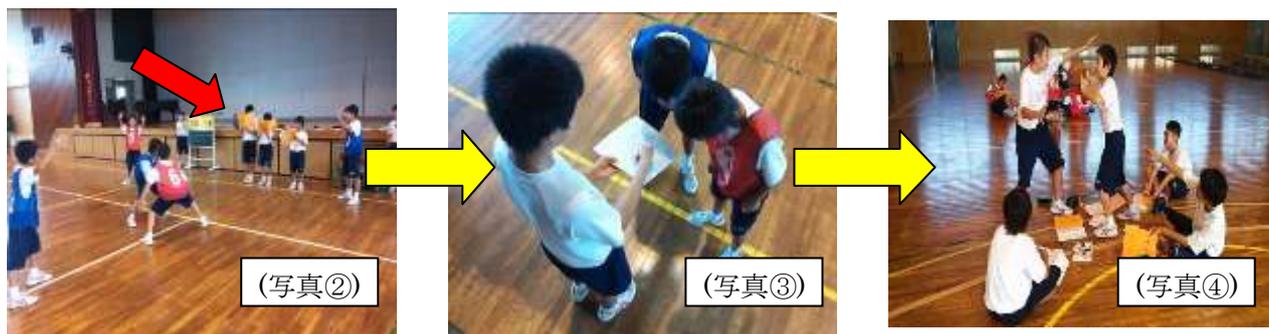


仲間との教え合いの場面 柔道の例 (写真①)

これまでの授業では、固め技や投げ技練習に取り組む際、二人一組での活動が多いように感じる。これを三人一組で取り組むことにより、第三者は外からアドバイスや気づきを伝えるようにする。⇒三人グループをつくることにより、1人は必ず外から客観的に活動の様子を見る事ができ、よりの確なアドバイスが出来るとともに、活発な教え合い学習が展開できる。



仲間との話し合いの場面 バasketボールの例 (写真②③④)



Aチーム対Bチームがゲームをしている際、Cチームのメンバーは、審判や得点係をするだけではなく、自分の担当する仲間を決め、ゲーム中の動きなどをチェックする。(写真②)

ゲーム終了後、仲間で集まり、気づいた点（良かったところ、悪かったところ等）を話し合う。(写真③)

更に、チームで集まり「本時の目標が達成できたか」⇒「次時の目標や課題」について話し合う。(写真④)

⇒試合のないメンバーが試合の様子を観察することにより、的確なアドバイスが出来るようになるとともに、自分自身の動きについても考えられるようになる。

4 参考資料として

以下に紹介する話は、ある小学校のPTA会長さんが、入学式でお話しされたものです。この話の中に言語活動がもたらすであろう様々な効果があるように思う。

PTA会長のスピーチ

1年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。PTAって知ってますか？聞いたことがある人？（手を挙げてもらうと5～6人の子どもが手を挙げる）

うわ～すごいね。知ってるんだ～ PTAのPはParentsと言って、お父さん、お母さんのことです。TはTeachersと言って先生のことです。AはAssociationと言って、日本語では、集まり、仲間です。だから、PTAは、お父さんやお母さん、そして先生たちの集まりで、そして仲間なんですよ。

どんな仲間かと言うとみんなが学校で楽しくお勉強したり、安心して遊んだりできるようにするにはどうしたらいいかなあ～って一緒に考えて色々なことをしてくれるんです。

だから、みんな安心して学校に来てくださいね。

それじゃ、これからお世話になるその仲間にご挨拶しましょう。おじさんも一緒にやりますから、大きい声で言いましょね！ はい、じゃ、立ちましょ。(1年生みんな起立)

まずはPTAのT、ティーチャーにご挨拶しましょう。みなさんはこれからいっぱいいろんなことを先生から教えてもらいます。はい、その先生方へ「よろしくおねがいます」ってごあいさつしましょう。いいですか？大きい声で言えるかな？じゃ、一、二の三で言いましょ。「よろしくおねがいます」(子どもたちの声が体育館に響く) 大きい声だね～。おじさん、嬉しくなってきました。

はい、じゃ、こんどはお父さんお母さんの方を向きましょ。みなさんは、これまでいっぱいうちで愛されて、ここまで元気に大きくなりました。じゃあ、まずそのことに「ありがとうございます」と言いましょ。「ありがとうございます」そして、これからはずう～とお世話になりますから、「よろしくおねがいます」ですネ。「よろしくおねがいます」

うわあ～すごい、大きな声ですね。おじさんは、みなさんの声を聞いてとっても元気になりました。は～い、ありがとうございます。皆さんの声を聞いて、会長のおじさんは、とっても元気になりました。みなさんが元気に挨拶するだけで周りの人はとっても元気になるんですよ～。みんなは、大人を元気にする見えない力を持っているんですよ。

でも、みんなの持っている力はこれだけじゃありません。じゃあ、みんなのお手々を出して下さい！(子どもたちが一緒に手を挙げる) たとえば、あいたたたあ～(とお腹が痛くなったふりをする) そのとき、みんなの手はどこにありますか？痛いお腹に当てますね。そうすると、お腹の痛みは少し弱くなるんですよ。

みんなは、お父さんお母さんと手をつなぐよね。そうするとどんな気持ちになる？悲しい？(ううんと子どもが首を振る) 安心するよね～。それは、お父さんお母さんの手の見えない力が、みんなを安心させてくれるからなんですよ。でもね、それだけじゃなくて、お父さんお母さんも、みんなの手から、見えない力をもらって、元気になるんですよ～。

みなさんは、見えない大きな力をもっているんです。大人を元気にする力があるんです。そんな大きな力がお手々にあるんですよ～。

それで、おじさんから、みんなにお願いがあります。そのお手々の見えない力をたくさんたくさん使って欲しいんです。

もし、お母さんがお家で泣いていることがあったら、みんなの手をお母さんの肩にそ～つとあててください。そしたら、きっとお母さんは元気になります。お友達が泣いたら、肩にそ～つと手をあててください。友達が元気になります。一人で寂しそうにしているお友達がいたら、そのお友達のそばに行って、お手々をつないであげてください。みんなの手の温かさがそのお友達に伝わって笑顔が出てきます。

新しいお友達とたくさんたくさん握手してください。とにかくクラスのお友達と一杯いっぱい握手してください。それだけで、みんなどんどん元気になって、たくさんのお友達ができるんですよ。

以下省略・・・

5 まとめとして

学校教育では、子どもたちに「生きる力」を身につけさせることを目標に掲げ、その実現のために“基礎的・基本的な知識・技能の習得”や“思考力・判断力・表現力等の育成”“豊かな心や健やかな体の育成”が求められている。

保健体育における言語活動（言語教育）を考えたとき、体育授業の特徴である“身体を動かす”ことと、言語活動を有効に機能させることで、その効果は大きなものになると考える。

上記で紹介したPTA会長さんの話のように、挨拶（言葉）を交わすことは、ただ単に表現力を育成するに留まらず、良好な人間関係を築く一助となること。また、そこに行動を伴わせることにより、効果は更に大きなものになると考える。

現代の子どもたちは、メールなどの通信手段の発達により、コミュニケーション能力の低下が著しく、それが良好な人間関係を築くことができない要因とされている。都合の悪いことは、メールなどで片付けてしまい、直接人と関わる機会が減少している現実が学校生活でも多々見られる。

保健体育の授業には、身体接触を伴う単元が体づくり運動をはじめとたくさんある。それぞれの授業において、言語活動と合わせて人と人が触れ合う機会が多くなれば、そのことがよりよい人間関係を築いていく一助となり“生きる力”を育むことにつながるであろう。

以上のような保健体育の授業を成り立たせるために、これまで以上に言語活動に注目し、生徒たちの心と体の成長につながる指導をしていきたいと考える。

体づくり運動から

